

月刊しぼうら

2015年 4月号

大動物事業部

<2月の相場動向>

2月の牛枝肉相場は、和牛去勢・交雑種去勢ともに前年実績を上回った。前月対比では1月の異常な枝肉相場の高騰を受けて和牛去勢はわずかな下げとなったが、それでも和牛去勢3等級で2,000円台を超える高水準の枝肉価格となっている。一方、交雑種去勢は前年・前月対比で全ての規格で上伸し、高値圏の相場形成となった。これらの要因の背景には、2月の概算の出荷頭数は和牛で1%減、交雑種・乳牛で10%減となっており出荷頭数の減少、輸入牛肉の品薄高などがあり、高値で推移している和牛から値ごろ感のある交雑種に切り替える動きが強まった。乳牛去勢牛も同じく高値で推移した。

<2月牛枝肉月間価格>

[和牛去勢]	前年同月比	前月比
A5	2,435円 (115.1%)	(98.5%)
A4	2,250円 (121.9%)	(98.0%)
A3	2,210円 (125.4%)	(99.7%)
A2	1,962円 (127.9%)	(99.6%)
[交雑去勢]		
B4	1,603円 (121.1%)	(104.4%)
B3	1,519円 (124.1%)	(106.8%)
B2	1,439円 (128.5%)	(109.5%)
[乳牛去勢]		
B3	上場なし (-%)	(-%)
B2	820円 (102.1%)	(117.5%)

<4月の全国出荷頭数予測>

農水省が発表した1月の食肉流通統計によると、全国の成牛と畜頭数は1.5%減の8万4,811頭、和牛が0.7%減の3万4,983頭、交雑種は0.8%減の1万7,660頭、乳牛去勢は2.3%減の1万6,855頭だった。農畜産業振興機構によると、3月の出荷頭数は前年比1.3%増の9万2,900頭で、これはと畜場稼働日数が前年に比べ2日多いことが要因で減少傾向に変わりはない。1日あたりの出荷頭数は3.7%減とみられている。品種別にみると和牛は0.8%増の3万9,100頭、交雑種は3.7%減の1万8,500頭、乳用種は4.2%増の3万3,600頭の見通し。東京食肉市場の4月のと畜頭数予定は、21日の稼働で約8,300頭程度を見込んでいる。

<4月の牛肉輸入量予測>

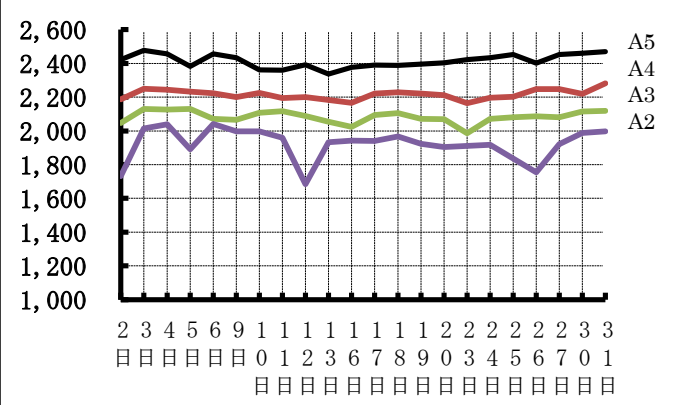
財務省の貿易統計によると、1月の牛肉輸入通関量は、前年比1.6%減の3万3,061tと4万tを下回った。うちチルドは10.7%減の1万2,745t、フローズンは5.2%増の2万316tだった。国別でみると、チルドは豪州産が13.4%増の8,581t、米国産は46.3%減の3,194tとなり、フローズンでは豪州産が20.4%減の8,293t、米国産は22.8%増の8,188tであった。前月からチルドが5,000t強減少しているのに対しフローズンは5,000t弱増加した。特に、米国産チルドは、北米西海岸の港湾労使交渉の影響などで供給が不安定となりほぼ半減した。農畜産業振興機構によると、3月は14.8%減の3万1,400t(チルドが6.6%減の1万5,300t、フローズンが20.9%減の1万6,100t)を予測している。4月の輸入牛肉入荷量は、日豪EPA発効によるさらなる関税率の低下や北米西海岸の港湾労使交渉も解決されたが、入船の遅れなど物流の混乱に伴い輸入数量が変動する可能性があるが、チルドが1万8,000t前後、フローズンが2万5,000t程度で4万3,000t前後と思われる。

<4月の牛枝肉価格予想>

4月の相場動向は、新たな年度を向えて行楽シーズン及び年度最初の大型需要期であるGWを控え、需要品目も焼材メニュー中心へと移行が進み活発な荷動きが期待される。しかし、全国出荷頭数の減少や輸入牛肉の現地価格の上昇、円安の進行による価格の高騰、更には米国産の物流の影響等による供給不足が考えられ下げ材料は少なく、国産の需要は根強いことが予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250~2,300	B4	1,550~1,600
A4	2,100~2,150	B3	1,450~1,500
A3	1,950~2,050	B2	1,350~1,400
A2	1,850~1,900		
乳牛去勢			
B3	1,050~1,100		
B2	950~1,000		

和牛去勢日別相場表 (3月度)



小動物事業部

食肉流通統計によると、2月の全国と畜は128万2,043頭(前年同月比95.6%)となり前年より減少した。主要食肉市場の取引頭数(同96.1%)が減少する中で当市場では、取引頭数1万8,854頭(前年同月比101.2%)と増加した。一方、2月分の豚肉通関実績は、総量で5万3,991t(前年同月比94.4%)と前年より減少となった。うちチルドが2万587t(同79.1%)となった。国別輸入量は米国が1万2,771t(同75.6%)と大幅減、カナダは6,717t(同80.6%)と減少、メキシコが1,096t(同139.4%)と大幅増となった。フローズンは3万3,404t(同107.2%)と前年を上回った。国別輸入量はデンマーク7,280t(同91.1%)、米国が6,803t(同147.8%)、カナダ2,735t(同69.4%)、メキシコが4,163t(同123.4%)となった。

<3月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	62,900	556	553	957
3日	61,300	569	541	1265
4日	60,500	576	565	751
5日	62,100	578	557	919
6日	63,500	593	572	980

上旬の全国と畜頭数は前年同時期に比べ少なく6万頭前半であった。一方、当市場の上場頭数は平均で1,000頭前後と前年を上回った。米国の港湾労使交渉も暫定合意したもの、依然として輸入チルドの供給量が少ない状況にあった為、国産ロースやヒレの引き合いも強くタイトな状況が続いた。枝肉相場は500円半ばから始まり6日には500円後半の相場展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
9日	61,300	613	600	788
10日	63,700	623	602	1010
11日	58,100	623	597	790
12日	62,100	602	580	828
13日	61,400	592	563	1048
16日	62,300	603	588	795
17日	61,600	606	575	1123
18日	61,900	614	583	836
19日	62,900	579	553	987
20日	64,200	557	525	1014

中旬の全国頭数も前年同時期に比べ大幅に少なく平均6万頭前半であった。当市場は、ばらつきはあったが平均900頭の上場となり前年を下回った。枝肉相場は出荷頭数の低い水準が続いたこともあり600円台での推移となったが、北米の通関量も正常化に向かい輸入チルドは落ち着きを取り戻し、全体的に荷動きも鈍かった。国内相場もバラなどの鍋物商材をはじめ、輸入品の代替であるロイン系のロース、カタロースも落ち着きを見せたこともあり19日には500円台後半の相場展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	61,000	532	497	845
24日	63,600	542	480	893
25日	59,800	522	491	701
26日	60,100	522	494	868
27日	63,300	529	497	865
30日	58,900	531	494	714
31日	58,800	568	555	832

下旬の全国と畜頭数は6万頭前半と前年実績を下回った。当市場の取引頭数は平均で800頭と前年を下回った。枝肉

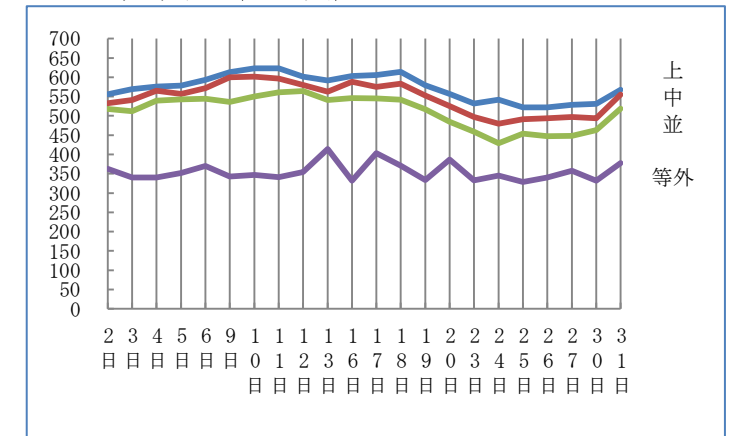
相場は輸入チルドポークの需要が落ち着き、国産物のひっ迫感は解消された。また年度末決算期に入り、過剰在庫も持ちたくないことから、全体的に荷動きが停滞し、上物加重520~540円となった。

<4月の豚枝肉相場見通し>

農水省による4月の全国と畜頭数は、135万9,000頭(同月比98.0%)と予測しており一日当たりの頭数は約6万4,700頭である。当市場の4月の集荷予定頭数は約1万8,000頭となっており、一日当たりでは約850頭の見込みである。一方、農畜産業振興機構による3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で5万7,100t(前年同月比78.5%)の予測となっている。内訳はチルドが2万3,300t(同83.0%)、フローズンは3万3,800t(同75.7%)の予測である。また1月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万6,823t(前年同月比82.0%)、輸入は16万7,825t(同116.9%)となった。合計18万4,648t(同112.5%)となった。推定出回り量は13万2,716t(前年比99.6%)となり、2か月ぶりに前年を下回った。うち国産品は7万7,532t(同94.6%)と減少、輸入品は5万5,184t(同107.5%)と前年を上回った。国内生産量は7万4,492tで(同92.5%)と4か月連続で前年を下回り、輸入量は米国の港湾労使交渉の影響もあり5万3,931t(同80.8%)と3か月連続で前年割れとなった。

こうした需給の状況下、4月は農水省の予測で微減としているが、産地ではPEDの発生による影響が続いている事もあり、出荷頭数は少ない見通しで需要はそれほど活発ではないものの、行楽需要、大型連休前の手当てが本格化することを勘案すると、4月の加重平均は上物590円前後、中物570円前後と予測する。

豚日別相場表 (3月度)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

**東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127
URL <http://www.tmmc.co.jp/>**